2014

ANNUAL REPORT
2014.04.01 – 2015.03.31

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

地域 × 若者 ＝ とちぎの新しい物語

Tochigi Youth Supporters Network

ＶＩＳＩＯＮ　-目指すべき社会-

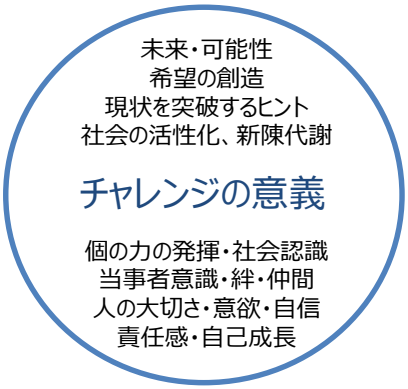
それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

ＭＩＳＳＩＯＮ　-社会的使命-

若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を加速させる

ＣＯＮＣＥＰＴ　-視点-

【現場】社会を創る実践者や課題と、若者とのリアルな接点
【役割】必要とされるチャレンジの場
【現場】若者のチャレンジを支え合うソーシャルキャピタル

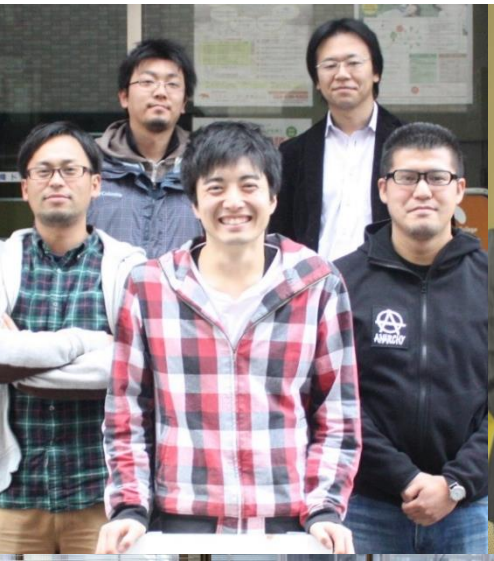
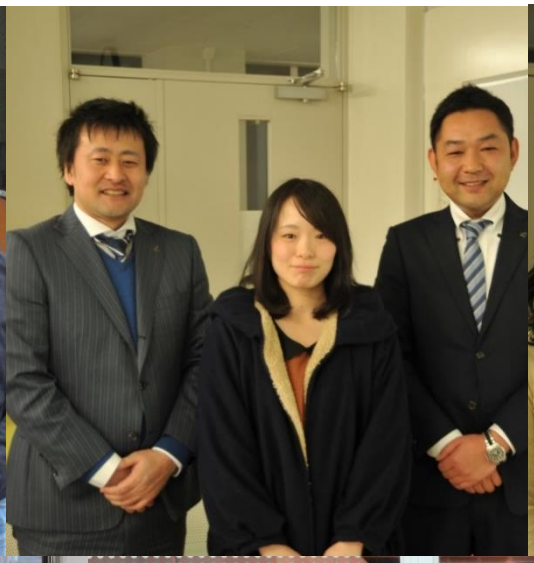


CONTENTS

4　組織概要・TEAMユーススタッフ
5　2014年度を振り返って
　　2014年度総括
6　プロジェクトの位置づけ
7　若者たちの挑戦の足跡
　　活動報告
8　インキュベーション
　　（１）・・・GENBA CHALLENGE
　　（２）・・・iDEA→NEXT
１２　動機付け
　　（３）・・・とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku／被災地の仕事づくりを加速させる。
　　若者による復興支援グッズの販路拡大と新商品の開発プロジェクト 3rdシーズン
　　（４）・・・地域中小企業の人材確保・定着支援事業
　　（５）・・・県協働推進事業　とちぎ県民協働フェスタ２０１４
　　（６）・・・その他の事業
　　宇都宮市産業力強化事業・まちなかフィールドワーク・とちぎ学生未来創造会議
　　ユースワークキャンプ for 海岸林・会員限定交流会YOUTHTIME・その他講師業等
１５　ファンドレイズの取り組み
　　（７）・・・ホン de チャレンジ
　　（８）・・・ユース年末寄付キャンペーン
１７　活動実績
　　・参加者数等・情報発信・メディア掲載・各年推移等
１９　ＴＥＡＭユースメンバーズ
　　・メンバーの声・支えてくださっている団体・企業のみなさま
２０　財務報告
　　・活動計算書
　　・賃借対照表・財産目録

地域×若者

次代を担う若者たちの胎動。
今、とちぎを舞台に意欲あふれる
若者たちが、躍動する。

組織概要

団体名：　特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク（愛称：TEAMユース）

代表者：　岩井 俊宗

住所　：　栃木県宇都宮市宮園町8-2　松島ビル2F　　Tel/Fax：　028-612-3341　　E-mail：　ysn_office@tochigi-ysn.net

設立　：　（任意団体）2008年7月１日　（法人化）2010年4月1日

スタッフ体制：　常勤２名、非常勤２名

会員数：　運営会員(個人)５２名、賛助会員(個人)３０名、賛助会員(団体/企業)９社、チャレンジ会員２８名（2015.03.31現在）

理事/役員：

代表理事	岩井　俊宗	(認定ＮＰＯ法人宇都宮まちづくり市民工房　理事)
副代表理事	塚本　竜也	(ＮＰＯ法人トチギ環境未来基地　代表理事)
理　事	大塚　雅斗	(株式会社キッズコーポレーション　代表取締役)
理　事	清嶋　磨利夫	(株式会社キップルネットワーク　代表取締役)
理　事	小久保　行雄	(有限会社ドンカメ　代表取締役)
理　事	金井　光一	(ＮＰＯ法人チャレンジド・コミュニティ　代表理事)
理　事	中野　謙作	(一般社団法人栃木県若年者支援機構　理事長)
理　事	古河　大輔	(ＮＰＯ法人とちぎユースサポーターズネットワーク　事務局長)
監　事	安藤　正知	(宇都宮まちづくりセンター「まちぴあ」　センター長)

サービス（事業）：

(1)特定非営利活動に係る事業

1.社会事業を行う若者の人材育成事業
2.ソーシャルプロジェクト支援事業
3.ネットワーク・コミュニティ形成事業
4.行政、企業、NPO、組織形態を越え
　地域・若者サポートネットワークの構築事業
5.挑戦する若者を支える奨学金事業
6.社会事業に関する相談/アドバイス事業
7.調査研究事業
8.情報発信・出版事業

(2)その他の事業

1.物品販売事業
2.出版事業
3.施設管理業務事業

TEAMユーススタッフ

【スタッフ】

代表理事
岩井　俊宗

1982年生まれ。宇都宮市出身。宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティアコーディネーターとして宇都宮市民活動サポートセンター入職。NPO・ボランティア支援、個別SOSに従事。08年若者の成長の機会創出と持続的に取り組む人材を輩出し、若者による社会づくりの促進を目的に当会を設立。その他、NPO法人宇都宮まちづくり市民工房理事、栃木県社会貢献活動推進懇談会委員等。

【担当事業】GENBA CHALLENGE、とちぎ学生未来創造会議、他

理事・事務局長
古河　大輔

1980年生まれ。小山市出身。大学卒業後、名古屋でインテリアコーディネーターとして４年間勤務。その後青年海外協力隊(村落開発普及員)として南米ボリビアに赴任し、収入向上プロジェクトや植林などの環境保全活動に従事。誰もが地域のプロデューサーとなる多様性溢れる地域社会を目指し、現職。その他、ＮＰＯトチギ遊学代表、小山市市民活動センター運営委員等

【担当事業】iDEA→NEXT、復興支援プロジェクト　他

IT
プログラム
コーディネート
石川　慎太郎

1979年生まれ。鹿沼市出身。大学でコンピュータ工学を専攻。IT 企業で企画開発および営業企画・マーケティングを担当し、新商品開発や大手企業向けIT セキュリティ提案を多数行う。その後、NPO業界に興味を持ち、とちぎボランティアネットワークと日本ファンドレイジング協会でファンドレイジングを経 験。現在は地元栃木県にて、地域の企業やNPO のIT化や情報発信の支援を行っている。NPO 法人サバイバルネット・ライフ理事。20カ国を旅したジェットコースターマニア。

総務・経理
森　雄史

1983年宇都宮生まれ。駒澤大学を卒業後、あてもなく無職の時代を1年半ほど経て、ユースが立ち上げた学校「とちぎユースワークカレッジ」に1年半ほど 在籍。そこでのインターンでユースへ赴いたことが最初のユースとの出会いであり、その後10ヶ月ほどインターンを続ける。インターン終了後は簿記3級の資 格取得のために勉強。先日なんとか合格。その後ユースの非常勤スタッフとして招き入れられ、事務や庶務を担当。現在に至る。

【インターン】土橋優平

【ボランティア】新井愛奈、五十嵐圭、石田遥香、宇佐美博光、大波龍郷、岡井泉樹、岡本菜摘、瓦井来実、菊池雄太、工藤拓朗、早乙女龍馬、高橋司、高橋伸明、冨樫奈美子、土橋優平、内藤さつき、中里愛、二瓶賢人、野口武、花田健太、浜田亜紀、濱野将行、逸見栞、丸山英子、南谷拓哉、門間大輝、八木紘大、山口舞、山田実咲紀、山中隆弘、吉田直樹、和田紋佳、渡辺明里、渡邊貴也

2014年を振り返って

機能化。そして、加速。

2014年を数字で振り返ってみると、プログラム参加者延べ1432名(前年度1044名)、活動時間(人数×プログラム提供時間)は、10931時間(6233時間)と、大幅に若者と地域を繋げていく機会を広げていくことができました。
こうした活動の発展の背景には、119名(前年度64名)会員と53名(71名)の寄付者、9社(3社)の賛助会員企業、11社(12社)の協賛企業、そして358名(277名)のボランティア等の協力者のご支援とお力添えがあります。活動を支えて下さる皆様に、深く感謝申し上げます。

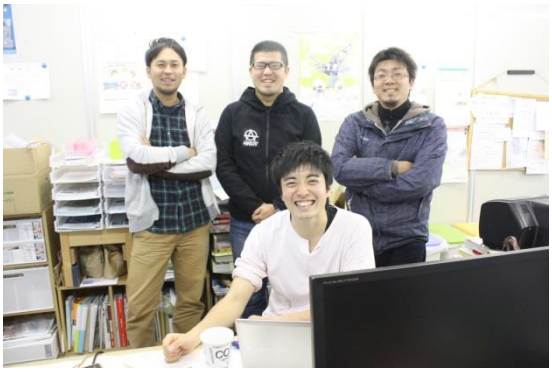
2014年は、2013年に注力した事業の体系化に基づき、実行の年となりました。その結果、各種プログラムへの力の集中と連動により質の高いプログラム提供ができました。職員だけでなく、多くの会員や協力者の力を借りて事業を展開することができたことも特筆すべき、今年度の特徴です。それを可能にしたのも、会員のコミュニケーションを図り、会員との一体感やその力を活かした組織運営にも注力してきたことがあります。会員交流会「YOUTH TIME」なども始まり、会員同士の顔の見える関係、できること・挑戦していることの可視化、それぞれのプロジェクトの加速をテーマに実施してきました。その中で会員がもっと関わりたいという声や具体的に支援を必要としている声を丁寧に聞いてきました。それらの声が、現場の職員にとって事業の執行だけではなく、会員の想いを託されている実感を育み、“開かれた”事業運営に繋がったと考えています。

2014年は、挑戦する若者と、それを必要とし支えていく地域との繋がりあい、新しい物語(価値創出に向けた動き)が仕組みとして生まれ始めた年になったと自負しております。
次年度に向けては、会員の力や協力者、ご支援くださる皆様方の力を借りながら、より一層の事業推進と社会的インパクトを創出していけるよう、取り組んで参ります。

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク
代表理事　岩井　俊宗

2014年度活動総括

1 事業が体系化され、プログラムの連動による規模・質ともに、成長した。



プログラム参加人数1432人(前年度1044人)、 活動時間も10931時間(6233時間)と機会創出量を高めることができた。 参加者をそれぞれのステージの引き上げることや、会員化など、機能化して行うことができた。

2 社会をよりよくしたい若者の会員化（チャレンジ会員）、会員交流会「YOUTH TIME」が始動。

プログラム1の動機づけステージの参加者を組織として支えていく仕組みとして、30歳代以下の挑戦していく若者向け会員システム「チャレンジ会員」制を創設した。1年間で28名の登録(11月～3月)。
また会員の事業加速を目的とした会員限定の交流会「YOUTH TIME」を開始し、4回78名が参加した。直接会員への事業進捗報告や相談が可能になった他、会員のアクションプレゼン・ミニセミナー、交流などを行った。会員間の事業マッチングなどを実現 した。

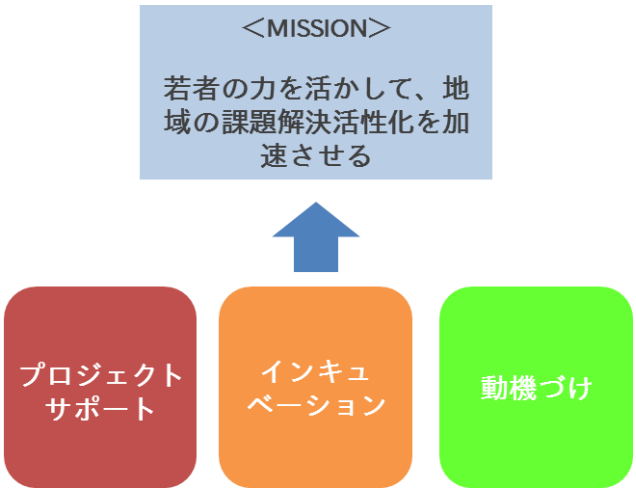
3 会費・寄付等の資金的応援も高まった。

時間・労力の寄付としてのボランティアだけではない参加として、資金的応援の獲得(会費、寄付)にも注力してきた。その結果、会費555,340円(前年度425,500円)、寄付金3,102,180円(前年度1,044,840円)と、会費・寄付等が広がった。

4 若者が社会をよくしていく挑戦から生まれた地域の新しい物語の発信が強化された。

メディア掲載数は変わらないもの、雑誌「ソトコト」に掲載されるなど、全国への発信媒体に掲載された。また中小企業庁、民間コンサルティング会社等からの調査研究・視察等もあり、全国に発信できる機会が広がった。

プロジェクトの位置づけ



プロジェクトリスト

分　類	プロジェクト名	期　間	予算 / 決算（千円）
■■	●実践型インターンシップ事業 「GENBA CHALLENGE」・「課題発見・解決型インターンシップ」	通年	3880 / 1760
■■	●若者の社会を良くするアイデアプランコンテスト 「iDEA→NEXT」	2014年10月～ 2015年3月	200 / 691
■	●地域中小企業の人材確保・定着支援事業	2014年6月～ 2015年2月	1100 / 2886
■■	●とちぎ手仕事支援プロジェクト FukuFuku ※LUSH　JAPAN東日本大震災復興支援チャリティ助成	通年	1500 / 2421
■■■	●その他の取り組み 1）宇都宮市産業力強化事業 2）栃木県協働推進事業「とちぎ県民協働フェスタ2014」 3）栃木県まちなか元気会議事業　「まちなかフィールドワーク」 4）とちぎ学生未来創造会議（共催事業） 5）「ユースワークキャンプfor海岸林」 6）会員限定交流会「YOUTH　TIME」 他	2014年4月～ 2015年3月	3670 / 4463
	●講演・ワークショップファシリテーター等	通年	--- / ---
	●ファンドレイズ （1）「ホン de チャレンジ」 （2）「ユース年末寄付キャンペーン」（2014.11.20～2015.02.28）	通年 2014年11/20～ 2015年2/28	180 /102 --- / 800

若者たちの挑戦の足跡

宇都宮市

○GENBA CHALLENGE
・“働くママ・パパ”を支える「保育士確保と保育の質の向上」プロジェクト
　／　株式会社キッズコーポレーション
・”障がい者の働きたい”を広げる！障がい者雇用加速プロジェクト
　／　シーデーピージャパン株式会社
・100の組織変化をつくる「プロミス100」プロジェクト　／　阿部梨園
・まちを面白く・豊かにするコミュニティデザイナーの新たな孵化拠点を活性化せよ
　／　有限会社レーベンデザイン(ユイノマ)
・“自然遊びおにぃちゃん、おねぇちゃん(ボランティア)”開拓プロジェクト
　／　NPO法人だいじょうぶ
・大谷石需要拡大プロジェクト　／　大谷石材協同組合
・「学生」を「社会」とつなぐ仕組み・コミュニティづくりプロジェクト
　／　NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

○宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター連携事業
　「課題発見・解決型インターンシップ」
・SNS等を使用した企業から学生への情報伝達方法を考える　／　藤井産業株式会社
・住宅マーケットのアイデアを企画する　／　栃木セキスイハイム株式会社
・学生が楽しめるプロバスケの試合を創出し、ホームゲームに若者を
　／　株式会社リンクスポーツエンターテインメント
・浅漬販売促進のためのアイデアを企画する　／　株式会社アキモ

○iDEA→NEXT
・iDEA→NEXTギャザリング
・ファイナルプレゼンテーション
・「若い力と小水力発電で里山の課題解決」　／　Ｗａｎｄ
・「対話で学ぶ表現力　～言葉を味方に！お友達を100人作ろう～」/内藤さつき
・「オープンカンパニー　～オープンなのは大学だけじゃない～」
　／　学生と社会を繋げる団体Ｂｅ

○地域中小企業の人材確保・定着支援事業
・働く人図鑑　／　宇都宮大学、作新大学、宇都宮共和大学
・社長留学　／　企業組合とちぎ労働福祉事業団、有限会社レーベンデザイン
・iDEA→SEED

○県協働推進事業
　とちぎ県民協働フェスタ２０１４
　-はばたけ！未来を創るソーシャルプロジェクト見本市-
○宇都宮市産業力強化事業「ソーシャルビジネスフォーラム／セミナー」
○栃木県まちなか元気会議事業「まちなかフィールドワーク」
○とちぎ学生未来創造会議（共催事業）
　「ミライカタルキャンプ／ミライツクルキャンプ」
○会員限定交流会「YOUTH TIME」
○風と緑の幼稚園引越しプロジェクト
○古本で若者のチャレンジを支える寄付のしくみ 「 ホン de チャレンジ 」
○ユース年末寄付キャンペーン

那須烏山市

○iDEA→NEXT
「ピンチだ！ナスカラスヤマ」
　／　ＲＥＣスタジオジャパン

栃木市

○iDEA→NEXT
「子ども・若者が自分で考え、人や自然と調和し、自分らしく生きる社会をめざす学校設立」
／　宇賀神雄太

小山市

○iDEA→NEXT
・「幼稚園、保育園を多方面から評価するサイト＋α」
　／　三川岬

○地域中小企業の人材確保・定着支援事業
・働く人図鑑
　／　白鷗大学

○地域中小企業の人材確保・定着支援事業
・社長留学
　／　有限会社アシスト、税理士法人優貴会 小山本部

県外

東京都

○地域中小企業の人材確保・定着支援事業
とちぎで働き、暮らしを楽しむ１０のコト

福島県

○とちぎ手仕事支援プロジェクト FukuFuku
○ユースワークキャンプ for 海岸林

実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」

GENBA CHALLENGE
実践型インターンシップ“ゲンバチャレンジ”

「成長と挑戦」×「価値創造」

まちづくりや社会課題に取り組む組織が抱える“課題の解決”や“次の一手を創る”現場をフィールドにしたインターンシップ。
成長意欲のある若者には、“より本質的な力”を、受入組織様には、“社内の変化と新たな価値”を生み出しています。

※インターンシップ…「自らの専攻や将来のキャリアと関連した分野において、主体的役割を果たす事を通じて社会的価値を創造していく精神と力を身につけ、学生生活及び自立的キャリアデザインにフィードバックすること」(当会の定義)

実践型インターンシップ　プロジェクト状況

“働くママ・パパ”を支える「保育士確保と保育の質の向上」プロジェクト
受入組織　/　株式会社キッズコーポレーション
期間　　/ 2014.8.19-1.15
内容 / 復帰を考えている保育士の交流会の実施、保育士派遣事業の準備
参加者　/　三上果南子(宇都宮大学国際学部2年)
工藤史也　(宇都宮大学国際学部2年)
小野沙織(東京女子大学3年)
成果 / 保育士交流会の実施(2回)と保育士派遣事業開始

”障がい者の働きたい”を広げる！障がい者雇用加速プロジェクト
受入組織 / シーデーピージャパン株式会社
期間　　/ 2014.6.6-10.31
内容 /障がい者雇用の受入検討頂く企業営業を実践
参加者 / 小野塚夕佳(宇都宮大学国際学部4年)
成果 / 新規30社への企業訪問と説明

100の組織変化をつくる「プロミス100」プロジェクト
受入組織 / 阿部梨園
期間 / 2014.9.1-12.25
内容 / 組織に向けた従業員一丸となって100の業務改善を実施。
参加者 / 佐川友彦(社会人)
成果 / 70件に改善を達成、その後も継続して実施。

まちを面白く・豊かにするコミュニティデザイナーの新たな孵化拠点を活性化せよ
受入組織 / 有限会社レーベンデザイン(ユイノマ
期間 / 2014.6.7-2015.1.7
内容 / ユイノマの利用に関する管理業務の整理、広報、利用者の声の発信。
参加者 / 高田光紀(宇都宮大学国際学部2年)
成果 / ユイノマ稼働率の向上、継続的利用者が増加

“自然遊びおにぃちゃん、おねぇちゃん(ボランティア)”開拓プロジェクト
受入組織 / NPO法人だいじょうぶ
期間 / 2015.3.13-
内容 / 子どもたちと遊ぶ大学生ボランティアチームの創設と活動への継続的参画を実施。
参加者 / 秋山遊歩(国際医療福祉大学医療福祉マネジメント学部1年)
成果/進行中。大学生ボランティアチームの創設と新規5名の学生ボランティアが参画。

大谷石需要拡大プロジェクト
受入組織　/　大谷石材協同組合
期間 / 2015.3.03-
内容 / 建築士等の設計アイデアを具現化するオーダー受注システムの開発とそれに向けて既存ノウハウ資源の蓄積。
インターン生 / 二瓶賢人(宇都宮大学工学部3年)
成果 / 進行中

「学生」を「社会」とつなぐ仕組み・コミュニティづくりプロジェクト
受入組織 / NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
期間 / 2014.4.14-10.31
内容 / 「学生チャレンジステーション」コミュニティづくりと運用
参加者 / 土橋優平(宇都宮大学3年休学中)
成果 /263人のコミュニティを形成、交流会の実施。

宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター連携事業「課題発見・解決型インターンシップ」
2014年度は、4社の受入に14名の若者が挑戦した。

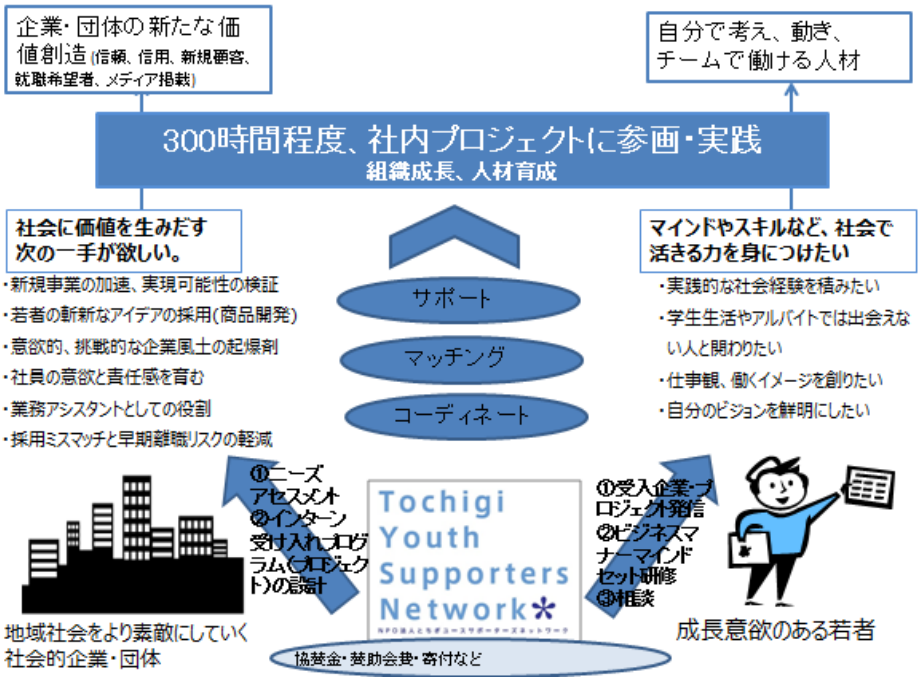
SNS等を使用した企業から学生への情報伝達方法を考える
受入組織　：　藤井産業株式会社
期間：2014.8.18-11.18
参加者 / 福島滉大(工学3年)　高橋知花(国際2年)
岡田ちふみ(農2年)

住宅マーケットのアイデアを企画する
受入組織　：　栃木セキスイハイム株式会社
期間：2014.8.8-12/12
参加者 / 佐藤拓弥(国際3年)蓮沼実佳(国際3年)
村上遥香(工学1年)

学生が楽しめるプロバスケの試合を創出し、ホームゲームに若者を
受入組織　：　株式会社リンクスポーツエンターテインメント
期間：2014.8.19-11.5
参加者 / 宇梶高博(国際4年)　千葉夏美(国際3年)
浜田亜紀(農2年)　渡部英樹(工1年)

浅漬販売促進のためのアイデアを企画する
受入組織　：　株式会社アキモ
期間：2014.8.18-11.1
参加者：小室祐樹(農3年)　石井尚人(農2年)
遠田萌(農2年)　加藤駿甫(農1年)

実践型インターンシップ



説明会

7/3　白鷗大学　19名
7/9　作新学院大学　120名
7/11　宇都宮大学　10名
内容：実践型インターンシップの説明

インターンシップ募集 / 申込

面接　/　合意

事前研修　/　オリエンテーション

9/7　TBCスキャット事務所　7名
内容：ビジネスマナー、マインドセット事前研修

実践型インターン　スタート

中間報告

修了

成果報告

2/4　宇都宮大学ラーニングコモンズ　32名
内容：実践型インターンシップの成果報告

活動した若者の声＆活動実績

阿部梨園の商品やブランド，経営姿勢，組織風土，スタッフには既に十分な魅力があり，それを最大限に引き出すための改善行動は有意義でした。特に園主の，農業者としてのプロ意識，経営者としての懐の広さに刺激を受け，人として多くのことを学ばせていただいた。明るく開放的な職場で，同じ目標のために労する組織に属することの充実感を取り戻すことができました。
佐川友彦(受入組織／阿部梨園)

営業パーソンになる上で必要な精神力の強さであったり、営業方法を学びました。また様々な障がい者施設・一般企業を訪問することで、それぞれの抱える課題やグレーゾーンが見えました。今後どちらでもないアクターがそれらをつなげるポジションを担わなければならないと思いました。
小野塚夕佳(受入組織／シーデーピージャパン株式会社)

自分一人ではできないけど、頼りっきりでもダメだということに気付きました。また自分の限界にも。同時に、関わる人の偉大さに気付きました。
自分がチャレンジすることでその環境で活動している人たちの苦労を知りました。同時に負けん気も生まれました。
土橋優平
(受入組織／NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク)

メディア掲載

宇都宮のキッズコーポレーション

「潜在保育士」の復帰促進

研修プログラム開発図る

学生と協力、不安解消へ

下野新聞 2014. 7. 23（朝）

宇大生インターンシップ

企業課題見つけ解決へ

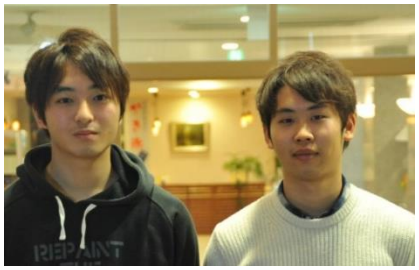
下野新聞 2014. 7. 1（夕）

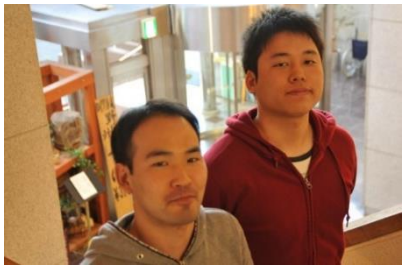
プロジェクト数：　11
インターンシップ参加人数：**24**名(前年度13名)
のべ活動時間：　**4917**　時間
受入れ大学：宇都宮大学/国際医療福祉大学/東京女子大学/社会人
協力者：**32**名

成果　・学生だけでなく、若手社会人のエントリーがあり、新たな広がりが見えた。また若手社会人(Ｉターン者)の受入組織に対する成果は大きく、その後も就職するなどの成果があった。

課題　・当初描いた目標設定に届かなかったケースもあった。慎重な目標の設定とさらにフォローを充実させていくことが必要。インターンシップ生の挑戦の最中を可視化、報告することができなかった。

若者による社会を良くするアイデアコンテスト「iDEA → NEXT 2015」





とちぎの新しい物語をつむぐ

ヒトとマチがイキイキとした地域を創るため、社会に新しい価値を提供する若者を数多く輩出し、地域の困りごとの解決や社会を良くする活動を促進する、若者がチャレンジするステージです。また若者のアイデアやアクションを見える化し、企業や地域で活動する人々と若者が繋がる場です。これまでで18組の若者を輩出しており、今年で3年目の開催になります。

栃木県には、他の地方と同様に様々な社会課題があり、困っている人がたくさんいます。そんな中、「社会貢献」や「地方」といった価値観を大切にしている若者が増えています。
内閣府「社会意識による世論調査」によると２０代の若者が「何か社会のために役立ちたいと思っている」割合が、45%（2002）→70%（2012）となるなど、確実に若者の意欲は変化しています。

と同時に、厚生労働省「若者の意識に関する調査（2013）」によると「日本の未来を良くしよう」という意欲の質問では、「考えてはいるが、具体的にどのようにすべきかわからない」が26.8%との結果も。想いを持ちながらもアクションを起こせていない現状がある中、アクションを起こすきっかけを提供する必要性を感じています。

地域では若者が育まれる現場が少なくなってきています。
若者を育むのは学校だけではなく、企業やＮＰＯ，地縁組織など様々です。栃木で若者を育み、活かし、また次の世代を育てていく、循環型のエコシステムを実現するためにも、多様な主体とのネットワークを構築することが重要です。そのため、若者のアイデアやアクションを見える化し、企業や地域で活動する人々と若者が繋がる場としても機能させています。

とちぎの新しい物語をつむぐ

10月18日のソーシャルビジネスフォーラムをキックオフイベントとし、始まった今年度のiDEA→NEXT2015のアイデア募集。その後も連続セミナー形式のソーシャルビジネスセミナーなどの社会的起業に関する講座を開催し、12月9日にアイデア募集を締め切り。厳正な審査の結果、第一次審査を突破し、ファイナリストとなったのは全6組。自身が直面している問題や社会全体で直面している課題などテーマも様々です。

ファイナリストたちが初めて顔を合わせたのは、年が明けて2015年1月17日～18日。この2日間はiDEA→NEXTギャザリングと名付けられたファイナリスト自身のアイデアに磨きをかけていく（ブラッシュアップ）合宿でした。この日はとちぎを代表する社会起業家の一人、有限会社ドンカメの小久保行雄代表取締役にソーシャルビジネスの必要性や事業化することの大切さなどお話頂いた後は、県内の先駆的事業者の皆様（メンター）にご協力頂いてのブラッシュアップに。ファイナリスト同士の交流や、現場で活躍する方々とのホンキの議論がファイナリストたちのやる気に火をつけました。

またブラッシュアップはこの2日間に留まりません。毎週火曜日にブラッシュアップ研修の時間を設け、日々自身のアイデアに磨きをかけていきます。こちらも毎週メンターの皆様にご協力を頂きまして日々ファイナリストたちの自己との戦いは続いていきました。中には日付をまたごうかというほど熱中している日もありました。そういった熱のこもったブラッシュアップの日々を過ごしつつ、3月15日のファイナルプレゼンテーション当日は近づいていきました。

iDEA→NEXTのプロセス

ブラッシュアップによって磨き上げてきたアイデアを一般の方にお披露目する場であるファイナルプレゼンテーションを、3月15日（日）宇都宮大学峰キャンパス峰が丘講堂で開催しました。当日は多数のオーディエンスの皆様にご参加頂きました。

当日のプログラムは大きく分けて3つ。
・6組のファイナリストによる社会をよくするアイデアプレゼンテーション
・起業家によるトークセッション
「社会をよりよくしていくアイデアとアクション」
・2014年度グランプリ伊川夢起氏による活動報告

ファイナリストのよるプレゼンテーションの他、栃木を代表する社会起業家によるトークセッションを行い、栃木のソーシャルビジネスやＮＰＯへの興味関心を喚起しました。その後のファイナルプレゼンテーションでは、どのアイデアも想いが伝わってくる内容となりました。
投票や審査の結果、各賞の受賞は以下の通りとなりましたが、アイデアは実現してこそ価値があります。本取組みから輩出された若者たちの活動を引き続きサポートし、栃木に生まれた新たな火を応援しています。
地域に価値を生み出す若者を輩出するためにも、継続してこの取り組みを行っていきます。

これまで実施してきた経験から、最終プレゼンテーションまでのブラッシュアップの価値を再確認し、これまでのメンター制に加え、会員から有志を募り、伴走者として若者を支えていただきました。多くの方のご協力とブラッシュアップにかける時間を増やしたことで、どのアイデアも実現性があり、これからを期待させるものになりました。

この事業を実施する上で、メンターとして関わってくださった多くのみなさま、賞金や運営資金に協賛してくださった企業や個人のみなさまのお力添えがあって実現することができました。ありがとうございました。

ファイナリストの声

・　長い時間アイデアを練ることで生む苦しみを感じ、周囲の人に助けられて新しいモノが出来ていくプロセスとその結果を得た事は大変勉強になった。
・　自分たちだけで考えるよりも、色々な人に会い、話すことで新たな視点・考えが得られた。
・　問題の大きさに気づき、現状を変えるのは本当に大変。
・　「アイデア」そのものは、私一人のものだけど、それを形にする時は「誰かと一緒」なんだな、ということを感じました。ご縁に感謝して、このつながりを大切に、これからも頑張っていきます！
・　ひとりでは考えられなかった立ち上げまでの準備・計画事項をメンターの方々と話す中で発見できた。
・　応募した段階ではほとんど形になっていなかったアイデアがこれまででそれなりの形になり、本気になることと対話の重要性を感じた。
・　プランをブラッシュアップしていく中で、これまで１年近くＢｅとして活動してきたものが、“主観”でしかなかったことに気づけました。たくさんの方に支えられ、自分が今ここに立っているのだと、実感することができたのは宝です。（一部抜粋）

ファイナリストとそのアイデアたち

「若い力と小水力発電で里山の課題解決」
Ｗａｎｄ（water acceleration nature deed）
吉田　直樹、廣瀬　達也

「対話で学ぶ表現力　～言葉を味方に！お友達を100人作ろう～」
内藤　さつき
オーディエンス特別賞

「幼稚園、保育園を多方面から評価するサイト+α」
三川　岬

「ピンチだ！ナスカラスヤマ」
ＲＥＣスタジオジャパン
加藤　裕貴、望月　悠平
ユーキャンドゥイット賞

「子ども・若者が自分で考え、人や自然と調和し、
自分らしく生きる社会をめざす学校設立」
宇賀神　雄太
審査員特別賞

「オープンカンパニー　～オープンなのは大学だけじゃない～」
学生と社会を繋げる団体Ｂｅ
土橋　優平、三上　果南子、加藤　祐也
グランプリ
Yuinoma賞

今年度は多くの協賛を頂いた株式会社ユーキャン様による「ユーキャンドゥーイット賞」とレンタルコミュニティカフェyuinoma様による「yuinoma賞」の2つの賞を新設。
・審査員特別賞は審査員による選考で選ばれたアイデア
・オーディエンス特別賞は最も多くのオーディエンスから支持を集めたアイデア
・グランプリはオーディエンスと審査員の両方の支持を集めたアイデア
なお企業賞はそれぞれご協賛企業の方々が直接選ぶことができるシステムです。

協賛企業：11社　個人寄付：18名
メンター/審査員：23名
後援・協力企業/団体：26社/団体
運営/WEB/DTP/VIDEOボランティア：11名

成果

・企業やＮＰＯ、行政など実際に活動されている方々によるメンタリングによって、アイデア応募者自身の成長とアイデアの質が高められた。メンターやこれまでに輩出した若者たちと繋がりアイデアが広がり行動を加速させるなど、学外／社外の地域で若者を育んでいく土壌とその生態系を作りだすネットワークとして機能し始めた。
・学生、若手社会人など様々な立場の方々からのエントリーがあり、これまで「何かしたいけど、どうしていいかわからない」層が活動するきっかけとなり、地域で活動する新たな人材を発掘できた。
・若者が行動を起こすことで社会は良くなっていくという期待感と必要性を発信でき、栃木県の地域づくりに貢献できた。
・昨年のグランプリ受賞者である伊川氏が、コンテストに参加したアイデア「ＬＤ学習塾」で実際に起業するなど、これまで輩出した若者たちの動きが生まれている。

課題

・本事業は３年を経て一定の成果をあげられるようになったが、次のステップには、より多くのチャレンジする若者を募り、アクションに移す仕掛けが必要である。会員のノウハウを結集し、現状のスキームから更に多くのヒト・モノ・コトを巻き込む仕掛けを検討していく。

動機づけ

■　LUSH JAPAN　東日本大震災活動チャリティポット助成

「とちぎ手仕事支援プロジェクト FukuFuku」

若者のアイデアと行動力で、復興を応援する

２０１２年度・２０１３年度に引き続き、福島県の被災者の生きがい・やりがい作りとして福島県の仮設避難者等によって作られた復興支援グッズの販路拡大を図ること。復興に若者の力とアイデアを活かすこと。この2点を目的として実施。（１）復興支援グッズの栃木県内での販売促進、イベントへの出店、（２）協力店舗とのコラボイベントの開催、（３）震災の風化を防ぎ、関わるきっかけの創出を通して、復興活動を支え、現地の方の生きがい／仕事づくりを行った。カフェや本屋などの店舗に常設設置していただきいつでも買える環境の整備のほか、イベントでの出店による買う/知る機会を広げていきました。また、震災を風化させないように継続して福島へ赴き、復興の様子やそこに関わる方々との交流、ただの観光ではないスタディツアーの実施などを通して、現地の状況を広く発信しました。また波及効果として、生産者たちが新商品開発に積極的に取組むなど、良い動きが生まれてきました。こうして生まれた商品から、今後はオーダーメイドでの手編みマフラーつくりといった新しい展開も見えてきたのが大きな収穫です。活動主体は、ユースと学生や若手社会人を中心にしたとちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku。

FukuFukuの役割

１．商品に込められた想いとその物語を伝えています。
２．使う人の反応をフィードバックしています。
３．作り手、売り手、使い手（買い手）の３者が出会う場をつくっています。
４．販売する店舗の想いを発信しています。

（１）販売協力店舗と消費者の開拓「協力店舗とのコラボイベント」
内容　実施回数：３回　イベント参加人数：64人
■「優雅でおしゃれな震災読書会」
震災支援×読書会イベント。震災に関して学び、共有する時間。
協力店舗：コミュニティカフェ カヌク
■「震災支援の深イイ話」
震災ボランティアなどを体験した若者＆協力店舗とのトークセッション。
協力店舗：チバコーヒー

（２）生産者に出会い、商品の物語を知るバスツアー
内容　実施日：３月８日（日）参加者数：１５人 協力団体数：４団体
■「手と手が出会う旅」
・広野手芸有志会訪問・いわき市内見学（復興商店街、久之浜）

（３）商品のプロモーション活動「既存イベントへの出店」
内容　実施回数：５回　イベント参加人数：1,530人
売上金額：39,800円（イベント内）
■「とちぎ県民協働フェスタ２０１４」
・商品販売※くじ引き割引・ゆるキャラ投票・いわき訪問動画
■「森と里のつながるマルシェ」
・商品販売　・ゆるキャラ投票
■「DenDenまつり　イイモノ市」
・商品販売　・活動紹介
■「オモイツタエル3.11」
・商品販売　・活動紹介

買うで広がる笑顔の輪

「こうやってみんなとおしゃべりしながら、作業に夢中になれる時間が、私たちにとってはすごく大切なんだよ。」
これは福島県いわき市のとある仮設住宅で出会った1人の女性の言葉です。商品を知ってもらう、購入してもらうことが、生産者の仕事だけでなく、仕事場というコミュニティややりがいを生んでいます。
FukuFukuが大切にしているのは、笑顔。
商品を作る生産者が楽しい時間で笑顔になる。
販売する店舗が商品のことを知り笑顔になる。
買い手が素敵な商品に出逢い笑顔になる。
そんな笑顔のたくさん広がっていく活動を継続して行っています。

サポートしている手仕事商品製作団体

広野手芸有志　福島県広野町
広野町からいわき市に避難し、仮設住宅に住むおばあちゃんたちが手作りで商品を作っています。どの商品も素材やデザインにこだわっており、１つ１つ丁寧に作られています。パワフルなメンバーの方々は、新商品を続々開発しています。

ＮＰＯ法人ザ・ピープル　福島県いわき市
２０年以上前から、いわき市を中心に古着のリサイクル業に携わっています。震災後は、いわき市で災害のボランティアセンター運営と、いわきオーガニックコットンプロジェクトを行っています。

自立研修所ビーンズ　福島県南相馬市
手仕事商品の製作・販売を通して、障がい者の雇用支援を行っています。暖かい雰囲気のビーンズでは、様々なアイデアを用いたり、外部からの協力で、新商品の開発にも力を入れています。

ＮＰＯ法人トチギ環境未来基地　栃木県益子町
環境保全を通じて、人と緑を育む活動を続けている団体です。津波によって大きな被害を受けたいわき市の海岸林。美しい景観と海岸林本来の機能を取り戻すために、２０１２年より市民の力で海岸林再生を目指す「苗木forいわき」プロジェクトに取り組んでいます。

販売協力店舗

2tree cafe
宇都宮市西原3-3-14
Minor Swing
宇都宮市中央1-6-4
BOOK FOREST
芳賀郡芳賀町祖母井368
コミュニティカフェスペース カヌク
日光市今市741
Cafe Mario
宇都宮市昭和2-9-20
ほっとスペースひだまり
宇都宮市西川田町1058-16
チバコーヒー
宇都宮市陽東3-7-2

参加人数（のべ）：**256**人
活動時間：**1392**時間　　協力者（のべ）：**70**人
取扱商品：**9**品目　総売上個数：**313**個数
総売上金額：**84,085**円

成果
・「日々やることがない中、商品が売れ、新たに商品を注文していただけるのが、何よりも日々のやりがいや張り合いになります。また若い方々との交流がとっても楽しいです。」といった作り手の声をいただけた。関係性が深まったこともあり、オーダーメイドの手編みマフラーつくりなど、新たな取り組みへの道筋が見えた。
・震災支援に継続的に関わっている組織が少なくなってきている中、継続的に関わり栃木で活動を発信することで、福島のために活動したい、関わりたいといったボランティアや協力者の力を現地につなげることができた

課題
・メインで支援している広野町からの避難者で構成される女性グループ「広野手芸有志会」のメンバーには、建設が進む災害公営住宅へ住まいを移す方も増えてきており、住む場所が遠く離れ、自家用車などの交通手段を持たない高齢の女性たちにとっては、これまでのような定期的に集まって一緒に商品を作るスタイルの維持は難しく、それぞれ自宅で商品を作るというスタイルへ変わってきている。集まる機会自体も激減しており、コミュニティ維持が難しくなっている。

「 地域中小企業の人材確保・定着支援事業 」

学生の働く×魅力的な中小企業

栃木にはたくさんの魅力ある中小企業・小規模事業者が存在します。しかし、大手就職サイトなどに就職活動の手段が限られてきており、若者が魅力ある企業と出会う機会がほとんどないのが現状です。そこで中小企業の魅力発信と将来を担う若手人材のキャリアサポートを目的とし、２０１３年に引き続き、株式会社ティビィシィ・スキヤツトから事業発注を受け実施しました。これまでの実績から、県内大学のキャリアセンターや先生方の信頼も得られ、学生と企業の両者からのニーズにマッチした新たなプログラムも実施しました。２０１５年度も更に取り組みを深め、栃木の若者と中小企業の出会い創出に取り組んでいきます。

▼　働く人図鑑（計６回）
実施大学：宇都宮大学、白鷗大学、作新大学、宇都宮共和大学
内容：魅力的な中小企業の経営者やスタッフの話を聞く動機づけプログラム

▼　社長留学（計８社※複数人受入れ含む）
内容：地域密着型企業経営者の３日間のかばんもち

▼　iDEA→SEED（計２回）
内容：「自分にもできる」を体感し、起業・創業を将来選択のひとつとする実践型セミナー

▼　とちぎで働き、暮らしを楽しむ１０のコト（計１回）
内容：首都圏の若者へ栃木県での就職や暮らしを発信するトークイベント

参加人数（のべ）：168人　活動時間：521時間
協力者（のべ）：48人　　受入/協力企業：14社

成果
・若者に「働く」や「仕事」に触れる機会と想いを高める実践的な挑戦の場を提供し、仕事への意欲やキャリア選択の充実、また栃木の魅力的な中小企業の発信を行う事ができた。若者が栃木の中小企業に目を向けることで、中小企業自身にも若者を活かす方策や環境を検討する機会になっている。

課題
・昨年と同様になるが、学生が企業や社会へ求めるものと、企業が学生に求めるもののギャップが感じられ、中小企業へ目を向ける機会の継続性の大切さを実感している。就活を意識しだす３年生より前の段階からの継続的な取り組みが求められている。

「 県協働推進事業　とちぎ県民協働フェスタ2014
ーはばたけ！未来を創るソーシャルプロジェクト見本市ー」

社会を良くするプロジェクトの駅前見本市

街を住みやすくする活動、芸術や文化を高める活動、困った人を助ける活動など、NPOや各種団体が行う市民活動への理解を深め普及するとともに企業の社会貢献活動や団体等の日頃の活動を紹介し、市民参加を促すためのイベントとして開催しました。体験メニューや飲食などバラエティ豊かなブース設置や「ゆるキャラ」の配置、寄付チケットの販売といった、より多くの人が興味を持ち、また活動参加のきっかけとなりやすい仕掛けを設けました。また、県内の大学・専門学校と連携した学生ボランティアによるチラシ・ポスターの制作や、ララスクエア宇都宮の協力による寄付チケット購入での店舗割引プログラムなど、協働を体現する様々な取組みを行いました。

▼　とちぎ県民協働フェスタ2014
ーはばたけ！未来を創るソーシャルプロジェクト見本市ー
日時　11月1日（土）10：00～16：00
場所　ララスクエア宇都宮　2階ペデストリアンデッキ
（宇都宮市駅前通り1-4-6）
内容　1.見本市形式による社会貢献活動(プロジェクト)紹介
2.見学・体験プログラム
3.物品販売(日頃の活動の一環のもの)
4.寄付券の販売と『ソーシャルプロジェクトブック』の配布

参加団体数　：２７団体　　来場者数　：4200人
寄付券販売　：45,000円

成果
・参加団体数は27団体となり、昨年の26団体とほぼ同規模での開催となった。来場者数は4200名。会場の規模を考慮すると、最大規模での開催と言える。また、大学・専門学校と連携したチラシ・ポスター制作の制作数は１９作品となり、イベント終了後も各団体で使用が継続するなど、好評を得た。準備も含めたボランティア参加者数は、のべ５２名。

課題
・天候に恵まれず、来場者数は昨年の5600名から減少した。また、会場設置や撤去のオペレーションなど、雨天の想定が甘く課題を残した。

その他事業

（１）宇都宮市産業力強化事業
「ソーシャルビジネスフォーラム／セミナー」

宇都宮市産業力強化事業の一環として位置づけられており、中小企業診断士協会や銀行、経営者団体、他の支援機関と連携し実施。ソーシャルビジネス分野で注目されている県内外の先駆的実践者を講師として招聘し、先駆者のノウハウを学びのプログラムに導入するとともに、ノウハウやメソッドだけでなく、講師やメンバーとの対話を通じた使命感やビジョンの共有などの研修機会やチャレンジするメンバーのネットワークを提供し、ソーシャルビジネス分野でのチャレンジを促進することが目的。

・ソーシャルビジネスフォーラム（参加者：５３人）
・ソーシャルビジネスセミナー（参加者：のべ５４人）

＜成果＞
フォーラムへの参加からセミナーの参加者となり、うち４名が実際に起業に向けて動き出すなど、具体的アクションに繋がるきっかけを提供することができた。

（２）栃木県まちなか元気会議事業
「まちなかフィールドワーク」
まちづくりの最前線とロールモデルに出会う。

次世代のまちづくり活動の担い手を掘り起し、行動への一歩を踏み出していくことを目的に開催。「まちなかの課題は何か」の講義の後、釜川エリアのまちづくり、“ジャズの街”の仕掛け人、ハードをハートで越える街・お店、フェアトレードタウンに向けた取り組みなどをテーマとした4か所のまちづくりの現場に訪れた。実践者との意見交換から取り組みの背景や想いに触れ、若者がまちづくり活動に具体的に必要されていることを話し合った。また次の一歩として参加できるプログラムを紹介した。7大学13名が参加した。

＜成果＞
・開催後も、参加者が訪問したまちづくり実践者に連絡を取り、活動に参加することが生まれた。

（３）とちぎ学生未来創造会議（共催事業）
「ミライカタルキャンプ／ミライツクルキャンプ」
出会い、繋がり、語り合う

栃木県内の大学生が、大学を越えて集い、未来や社会について語りあい、地域社会への主体的な一歩を踏み出してもらうことを目的に、国際医療福祉大学、白鴎大学、青年会館、社会福祉協議会、社会教育団体で構成された実行委員会を組織し、夏と冬に2回の合宿(ミライカタルキャンプ、ミライツクルキャンプ)を提供した。
延べ参加者49名、のべ協力者16名。

＜成果＞
ユースワークキャンプに参加する学生がいたりと、新たな参加者層が広がっている。
<課題>
より一層、主体的な社会活動参加の一歩を後押ししていくために、プログラムの内容と効果の検証が必要である。

（４）ユースワークキャンプ for 海岸林

今年度よりフクシマ環境未来基地のパートナーとして、福島県いわき市の海岸林再生活動「苗木forいわき」をメインフィールドとし、福島の抱える課題に対して、実際に植林などを体験し、汗を流しながら貢献することを目的としている。１泊２日間のワークキャンプを年６回実施し、計３４人の参加を得られた。

＜成果＞
・震災支援だけではなく、環境保全・過疎地域への関わりなど様々な活動を通して、福島の抱える様々な困難に貢献することができた。また活動を通して得られた視点から、県内で独自の活動を起こす参加者がいるなど、次へのきっかけつくりとなった。
・ともに汗を流し、２日間の時間を共有する中で、新たな人とのつながりが生まれ、活動が活性化された。

（５）会員限定交流会「YOUTH TIME」

会員限定交流会とし今年度から開催。ユースの事業報告、会員によるミニセミナー、交流タイムを軸に、企業の方や地域でアクションを起こしたい若者まで様々な方にお集まり頂いている。7月より実施、隔月開催し、昨年度は4回実施、計78名の方の参加を得られた。
主なコンテンツは、ユースとインターン生による活動報告・会員によるミニセミナー・交流タイムなどであり、ミニセミナーはNPO法人チャレンジド・コミュニティ理事長金井光一氏（第一回目）などにご協力頂いた。

＜成果＞
- 会員によるミニセミナーが好評で、とちぎの社会課題、社会貢献活動を毎回会員の皆様に見せることができた。
- 若いチャレンジ会員たちと若者の活動を応援したい方の新たな接点をつむぎだすことができ、新たなアクションが生まれた。

（６）講演・ワークショップファシリテーター等
またその他にも下記の事業を実施。

・風と緑の幼稚園引越しプロジェクト
当会の賛助会員でもある株式会社キッズコーポレーション様が運営する風と緑の幼稚園（現：風と緑の認定子ども園）の引越しをユースとボランティアスタッフで協力。

・講師派遣
日光市「地域おこし協力隊研修」、かぬま市民活動広場ふらっと「人材・資源・技術の集め方」、国際医療福祉大学ファシリテーション研究会「ファシリテーションについて」、第一学院高等学校「社会貢献の意義」、目白大学「宇都宮フィールドワーク」、栃木県老人福祉施設協議会「地域にねざす福祉拠点とスタッフのためのコーディネーション向上塾」、日本福祉教育・ボランティア学習学会、宇都宮大学「起業の実際と理論」、福島県社会福祉協議会、日光市日光活学舎「企画の立て方」「企画のブラッシュアップ」、マイナビ

参加者（のべ）：691名　プログラム実施回数：39回
協力者：79名　総活動時間：3961.5時間

古本で若者のチャレンジを支える寄付のしくみ「ホン de チャレンジ」

読み終えた本が寄付になり、若者による社会を良くするチャレンジをサポート

ご自宅や職場で不要になった書籍やＣＤ、ＤＶＤを株式会社バリューブックスが買い取り、その相当額をＮＰＯ法人とちぎユースサポーターズネットワークに寄付するプロジェクト。いただいた寄付は、社会を良くしようと活動する若者のプロジェクトに活用しています。

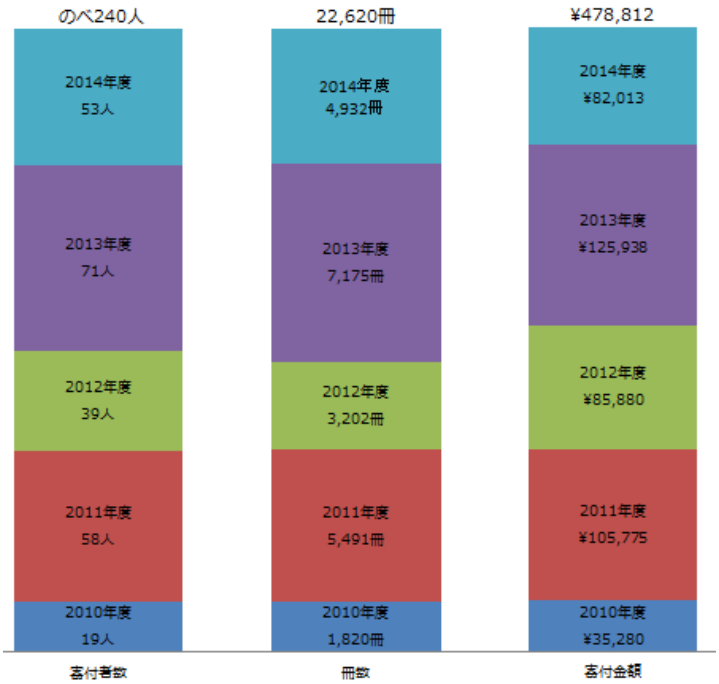
栃木県内だけでなく、日本全国から多くの方のご支援をいただくことができました。誠にありがとうございます。
※株式会社バリューブックス様との協働事業です。

2014年度寄付について

53人　4,932冊　82,013円

なお寄付金82,013円は当団体の事業「iDEA→NEXT」運営資金に充てさせて頂きました。
iDEA→NEXTにつきましては本報告書の10P～11Pをご覧下さい。

2010年度からの推移について



2010年度10月より開始したホン de チャレンジ。
それぞれの年の成果は左図のようになっております。

2013年度にはインターン生が加入し、活動を促進させたプログラムでしたが昨年度は新しい試みや専属の担当者もおらず、2013年度を下回る結果となってしまいました。またパンフレットの不足などがあり十分な広報が行えなかったのも原因だと反省すべき点がありました。

そのような中、以下のホン de チャレンジの古本回収BOXの設置にご協力頂いている5団体様からは継続的な支援を頂けていることが幸いでした。

- 宇都宮市まちづくりセンター　まちぴあ
- 下野新聞 NEWS CAFÉ
- 栃木県青年会館コンセーレ
- 宇都宮市社会福祉協議会ボランティアセンター
- 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク

古本のご寄付を頂いた方はもちろんですが、古本回収BOXにご協力頂いている団体様にもこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。

これまでの寄付総計

期間：2010.10.01　～　2015.03.31

240人　22,620冊　478,812円

成果
- 古本回収ＢＯＸを設置して下さっているご協力団体様からは継続的な支援を頂けるので2013年度の成果を無事引き継ぐことができたのが不幸中の幸いだった。

課題
- 芳しくなかった昨年度を反省に、新パンフレットを作成し、広めていくなど、改めて積極的な活動や広報が求められる1年となる。気軽に寄付できる機会を広げることは、市民の社会課題への関心を高めるきっかけとなっているので継続していきたい。

「ユース年末寄付キャンペーン」

若者のソーシャルプロジェクト(社会貢献活動)の加速及び、組織基盤の強化のために今年も寄付キャンペーンを行いました。具体的には、若者によるアイデアコンテスト「iDEA→NEXT」の深化と拡大、そして、若者の挑戦の”見える化”をテーマに打ち出しました。
iDEA→NEXTファイナルで気に入ったアイデアに直接授賞をすることができる一口100,000円の大口企業協賛を用意するなど、昨年とは違った取り組みも行い、昨年度を大幅に上回るご支援を賜ることができました。

支援者・団体数・金額（のべ）

39 人　**16** 社/団体　**¥809,000**（当初目標金額¥800,000）

おかげさまで目標達成！ありがとうございました！！

ご支援頂いた皆様（敬称略）

寄付

菊池　浩史
小林　弘典
佐藤　大地
嶋田　望
陣内　雄次
鈴木　和彦
高橋　靖明
土崎　雄祐
広瀬　浩
廣瀬　隆人
二見　玲子
松本　政憲
三宅　徹治
森　久美子
森　隆一郎
原　隆
湯本　浩之
渡邊　善一

協賛

協賛企業A
株式会社ユーキャン
レンタルコミュニティカフェyuinoma

協賛企業B
株式会社カナメ
株式会社グリーンデイズ
株式会社ジード
日光活学舎プラットフォーム
株式会社ファーマーズ・フォレスト

協賛企業C
株式会社五光宇都宮店
株式会社サムライトサムシング
社会福祉法人正恵会グランメールグループ
企業組合とちぎ労働福祉事業団

新規入会

個人
秋山　遊歩
五十嵐　圭
稲葉　章浩
宇賀神　雄太
加藤　裕貴
木村　和浩
桐生　典夫
小池　哲也
近藤　千園
神代　英昭
高橋　司
高橋　伸明
竹之木進　肇
栃原　晋太郎
萩原　英樹
広瀬　浩
藤村　麻衣子
松本　法判
三上　果南子
三川　岬
八木　紘大
山田　実咲紀

企業・団体

賛助企業A
株式会社キッズコーポレーション

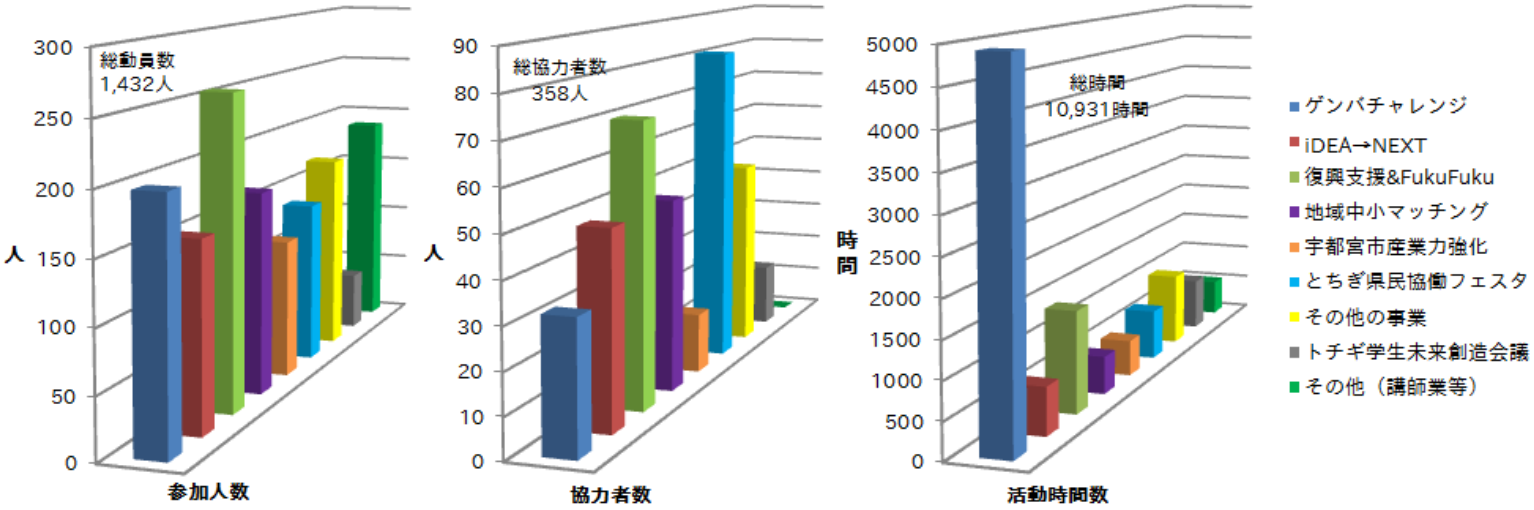
賛助企業B
企業組合とちぎ労働福祉事業団

賛助企業C
有限会社コーチ精機
株式会社五光宇都宮店
株式会社ファーム・アンド・ファーム・カンパニー

成果
- ユースの過去の寄付キャンペーンにおいて過去最高の寄付・協賛額を賜ることができた。

課題
- 寄付特典として送付させて頂いたiDEA→NEXT2015ファイナル招待券があまり使われなかった。iDEA→NEXTのための寄付・協賛を頂いたのに招待券があまり使われなかったのは残念。多くの寄付者の方にご参加頂けるよう、より魅力的なiDEA→NEXTづくりと情報発信をしていきたい。

数字でみるユース①（参加者数等）



活動実績分析

【参加人数】
1年を通して行っている復興支援（ユースワークキャンプ for 海岸林 年6回実施）＆とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku（通年実施）が最も多い結果となった。
ユースワークキャンプも毎回好評を頂いており、FukuFukuでも「手と手が出会う旅」、「震災支援の深イイ話」など開催イベントは毎回一定の参加を得られ人気プログラムとなっている。

【協力者数】
運営に様々なボランティアスタッフの力を借りた「とちぎ県民協働フェスタ」が最も多い。
昨年に引き続き、当日運営のボランティアに加え、今回は文星芸術大学などの芸術系学生より参加団体のポスターを作ってもらうなどのボランティアも募集・実施。新たなチラシやポスターの出来に参加団体の方にも満足頂ける結果となった。またボランティア・参加者団体同士の繋がりも生まれている。次点で参加人数でトップだった復興支援＆FukuFukuも一年間を通してユースワークキャンプでのフクシマ環境未来基地の方の協力や、復興支援グッズを置いて頂ける店舗など、多くの方に支援頂いているプロジェクトである。

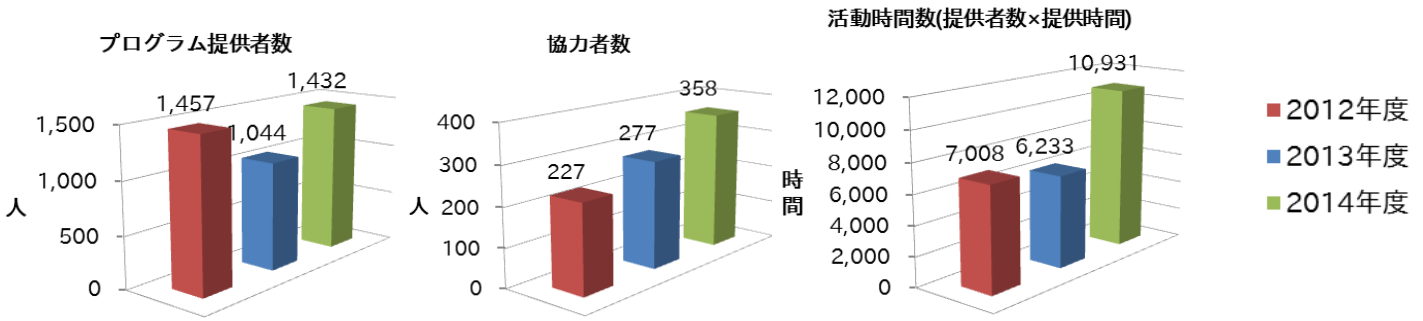
【活動時間数】
実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」（ゲンチャレ）が圧倒的1位に。
今年度はインターンのマッチングにも数多く成功し、若者が企業に密着し、長期に渡りプロジェクト推進を行うというゲンチャレの仕組みを体現できた結果となったと言える。また宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップも長期の時間をかけた大型プロジェクトとなり、ゲンチャレのうちの約半分を占めている。

メディア掲載

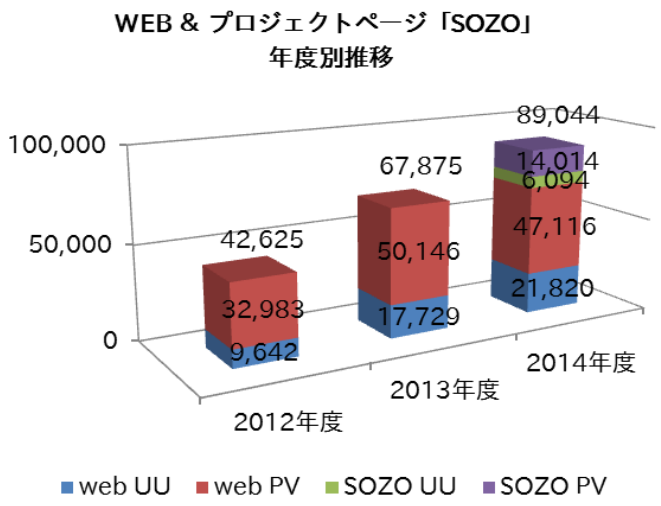
提出日	媒体名	プロジェクト名	記事タイトル
2014年6月6日毎金	RADIO BERRY		エコラジ「今月のエコピープル」
2014年6月23日	下野新聞 朝刊	とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku	委託販売　広がる支援
2014年7月10日	FM　PORT	とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku	東日本大震災復興支援情報コーナー
2014年7月23日	下野新聞 朝刊	ゲンバチャレンジ	潜在保育士の復帰促進
2014年7月28日	下野新聞 朝刊	ソーシャルプロジェクト見本市	宇都宮で11月　出展団体募集
2014年8月1日	とちぎテレビ		宇都宮大学　学生が企業の課題を解決へ
2014年8月1日	下野新聞 朝刊		宇大生インターンシップ　企業課題見つけ解決へ
2014年9月11日	朝日新聞 朝刊	とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku	被災者の手作り小物どうぞ
2014年10月1日	まちぴあNo11秋号	ゲンバチャレンジ	大学生による社会貢献活動 「人づくりから始める、将来のまちづくり」
2014年10月4日	ソトコト11月号		宇都宮でダブルプレイスはじめませんか？
2014年10月17日	朝日新聞 朝刊		社会的起業担い手集う
2014年10月17日	下野新聞 朝刊		社会問題解決へ起業考えよう
2014年11月1日	下野新聞 朝刊	ゲンバチャレンジ	潜在保育士復帰へ　7日現役と交流会
2014年11月1日	下野新聞 朝刊	ソーシャルプロジェクト見本市	県内27団体の社会貢献紹介
2014年11月18日	毎日新聞 朝刊	トチギみらくるギフト	若者の社会貢献を支援
2014年11月28日	下野新聞 朝刊	iDEA→NEXT	地域の未来を描こう　若者のアイデアを募集
2014年12月5日	ソトコト12月号		特集「地域の仕事」
2014年12月20日	毎日新聞 朝刊	ゲンバチャレンジ	明日潜在保育士のの交流会　大学生ら復帰後押し
2015年2月10日	日本建設新聞	ゲンバチャレンジ	大谷石材協同組合　地域資源の需要拡大へ
2015年3月13日	RADIO BERRY		愉快なラジオ
2015年3月13日	NHK宇都宮	とちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku	福島の復興支援
2015年3月13日	下野新聞 朝刊	iDEA→NEXT	未来のアイデア　聞きに行こう

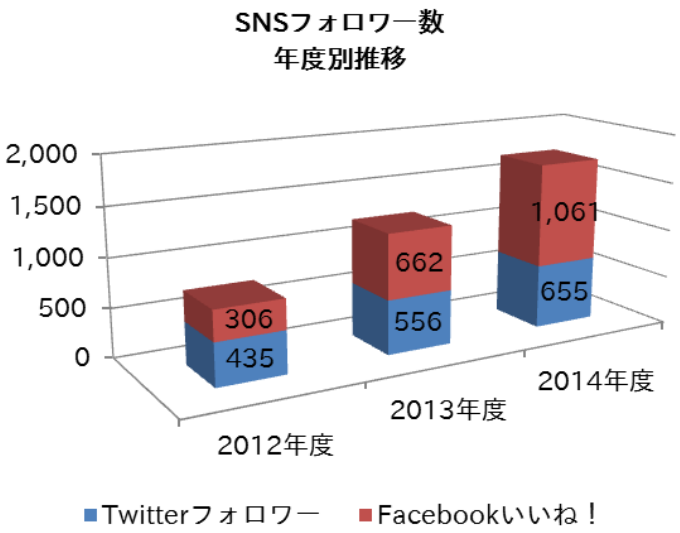
数字で見るTEAMユース②各年推移

プログラムデータ

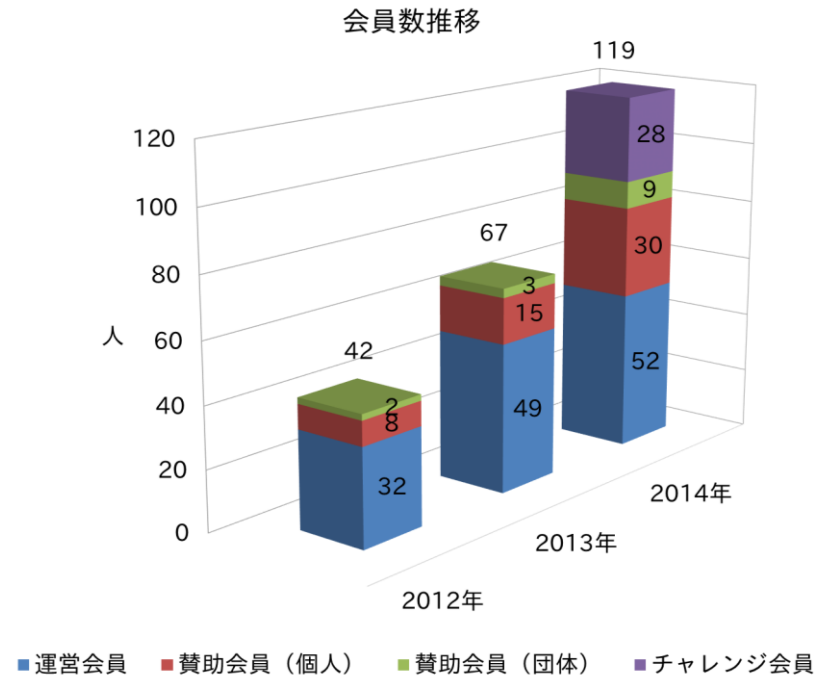


Web・ソーシャルメディア　等





会員データ



各年推移分析

【プログラム】
プログラムにおいては落ち込んだ2013年度の数字より回復し、参加者数においては2012年度並、活動時間数においては3年間で最高の数字を収め、プログラムの密度を高めることができた。これは昨年度伸び悩んだゲンチャレマッチングが今年度大幅に増えたことが原因であり、総活動時間の約45%がゲンチャレである。

【WEB・ソーシャルメディア】
2014年10月より新たにプロジェクトページSOZOを開設。ユースの実施しているプロジェクトやイベントをSOZOに集約させ、既存のサイトとの差別化を図った。SOZOは携帯用端末からのアクセスからも見やすいつくりになっており、アクセス解析ではスマートフォンからの流入が多い。
ソーシャルメディアについては今年度新たな取り組みなどで関わっていく人達が増えたことによりFacebookのいいね！数が1,000人を超え、アプローチできる母数が広がった。またFacebookほどではないが、Twitterも順調な伸びである。

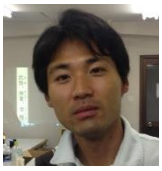
【会員】
今年度は新しい会員枠、とちぎで活動する学生・若者を対象にした「チャレンジ会員」を新設。今年度だけで28人の入会を得られ、実に会員総数の4割を超える規模にまで膨れ上がった。また企業・団体枠においては2014年総会で決定した賛助会員（団体）にA・B・C制度を導入。それまでは企業は最低でも会員になるためには年会費30,000円だったものを10,000円から会員になって頂ける仕組みを確立し、賛助会員（団体）の数は前年の3倍となった。

ＴＥＡＭユースは、会員やボランティア、協賛企業・団体など、たくさんの仲間たちに支えられて活動しています。

メンバーからのメッセージ

想いを言葉に！！言葉を行動に！
八木茂さん
運営会員
宇都宮市社会福祉協議会
地域福祉課

社会に対する問題意識を持ち、主体性をもって行動していく若者が大勢いることをとても嬉しく思います。そうした若者たちとの出会いはとても刺激的で、私に学びと気づき、新たな価値観をプレゼントしてくれます。アツい想いを持ったみんなを応援してくれる人間は、「大人」「若者」といった年齢や立場を抜きにして大勢いて、ユースの実践は、そうしたメンバーたちの出会いと支えと実践の場になっています。「今どきの若者は本当に素晴らしい!!」･･･これからもユースと若者のみんなを応援していきます。



若者らを世の光に！

小田直樹さん
運営会員
NPO法人
ほっとスペースひだまり

障がい者の支援の現場では、理想と現実の狭間の中で、ほんの小さな変化に一喜一憂することに意義を見つけていく楽天主義者が支援する相手や支援者自身の可能性を見つける事ができます。
ユースの皆さんが行っておられる若者の支援の本質は、私たちの現場に相通ずる感覚を若者たちに教え、育てさせながらも、その上に社会に対して、そしてその若者自身の可能性を見出していくという大きな意味があると感じています。
私は、そうしたミッションに真っ向勝負で立ち向かうユースの皆さんや若者たちをこれからも応援したいと思っています。

共に若者を応援する仲間です！
塩澤達俊さん
運営会員
財団法人とちぎYMCA
総主事

近ごろＹＭＣＡでもユース世代や若ものを“チェンジ・エージェント”と呼ぶことが多くなりました。ユースを応援しつつ社会へのインパクトを生みながら共に歩むという点で、とちぎユースサポータズネットワークとＹＭＣＡのミッションはまさに仲間。“チェンジ・エージェント”に期するところは変革のリーダーたることはもちろんですが、社会やコミュニティーのどこへでも軽やかに飛び込んでいって《変革の触媒役》になれること、これこそがユース流“チェンジ・エージェント”の真骨頂だと思います。しなやかな変革者たちを共に心から応援しています！

頼りにしてるぞぉ♪
篠原永知さん
（愉快さん）
賛助会員
USTREAM放送局
「ミヤラジ」番組パーソナリティ

大学生の子どもがいても不思議じゃない年齢を迎えた私には，ユースに集う若者達がまぶしくて仕方ない(笑)誰が見ても20年後，30年後に明るい未来があるように感じられない現代で，だからこそ，やらなければならないことにチャレンジしていく若者達と，それを支え，可能性を広げるサポートをするユースには，宇都宮の未来を託してみたくなります。いろんな活動をする人たちを「宣伝」することで，その活動を盛り上げ，愛する地元「宇都宮」の盛り上げに繋げる事を目指すミヤラジは，熱いチャレンジャーが大好物です。待ってるぞ！若者達よ！！

感心と期待を抱かせられます

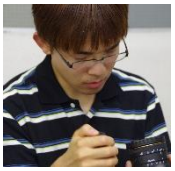
琴寄行雄さん
賛助会員
栃木県庁

とちぎユースサポーターズネットワークの存在を知って５年あまり。ユースの皆さんや大学生等の若者たちの活動、とっても気になります。企画、行動、発表などを見聞きし、様々な挑戦をしている人たちがいるんだなと感心し、併せて期待感も抱かせてもらってます。みんな、どんな背景があって、どんなことを考えて、何を目指して活動しているのかなぁ。自分とは20も30も年齢が違って、お互いちょっと緊張するかもしれないけど、話してみたくなります。これからも、ユースと、そして若者たちと関わりを持っていきたいですね。応援しています。

最高のアシストをくれる場所

土橋優平さん
運営会員
（2014ユースインターン生）
学生と社会を繋げる団体Be 代表

僕のユースでの最初の発言は「こんなにゆるくて大丈夫ですか」。それは約二年前初めてユースの事務所で、ある学生チームの会議を見学した時のこと。今ではその“ゆるさ”が事務所を気軽に出入りできる場所にしてくれています。しかしその“ゆるさ”が僕たち若者を“自律”させてくれる要因でもあります。怒られること、命令されることなんてありません。質問をすれば答えは返ってきます。「やりたい」意思を伝えれば後押しをしてくれます。でも自分から行かないと何もありません。「変わりたい」そんなことを願う若者がいたらぜひ。約二年前「ボランティアをしたい」とユースに顔を出した僕は今、NPO法人立ち上げを目の前に控えています。



自分に力を与えてくれる憩いの場
伊沢聡志さん
運営会員
宇都宮大学(H26.3月卒)
サトーカメラ

初めて、ユースを知ったのは、何を頑張れば分からずさ迷っていた頃でした。
そんな時にゲンチャレに参加して、fukufukuにも加わりました。
何でも親身になって相談してくれるスタッフ、精力的に活動している楽しい仲間たち、大学にはなかった出会いがそこにありました。
憩いの場で仲間たちと話すといつも強い刺激を貰います。これが私の原動力になり「よーし、頑張っぺ」という気持ちにさせてくれます。

希望があつまる場所

逸見栞さん
賛助会員
（2012ユースインターン生）
クルール・プロジェ

ユースの世界に足を一歩踏み込むと、「これからのとちぎは、日本は、絶対におもしろくなる！」とわくわくせずにはいられなくなること、間違いなし！そのくらい、社会課題に前向きに取り組む人々が集まる場所なのです。ユースに携わって、私の人生は180度変わりました。ユースは、いわば、私の人生の原点でもあります。社会人になった今も、ユースに足を運ぶと驚くほどの刺激を受けます。それは、やっぱり、希望が集まる場所だから。ユースから広がる、今後の世界が楽しみでなりません。

心の支え

五十嵐圭さん
チャレンジ会員
宇都宮大学　学生

「何かしたい」「変わりたい」漠然とした想いをゆらゆらさせていた一年前、友達に誘われたことをきっかけに関わり始めました。最初はただユースのいろいろなイベントにただひたすらに参加して楽しんでいました。だけど、本当は何がしたいのだろう、と彷徨う私に「楽しいことをやってみて、当てはまらなかったら次を探せば良い」と言ってくれました。…まだ挑戦を恐れるところはあるけれど、楽しいから入っていいんだ！と少しだけ心と足が軽くなった気がします。自分がこれからどんな道に進んだとしてもユースとは関わり続けたいです。

活動計算書

2014年4月1日から2015年3月31日まで　（単位：円）

	ゲンチャレ	ｱｲﾃﾞｱﾈｸｽﾄ	中小企業	復興販売	ホンチャレ	フェスタ	産業力強化	ユース会計	合　計
【経常収益】									
正会員会費収入								214,840	214,840
賛助会員会費収入		50,000						290,500	340,500
受取寄付金		108,160		1,000,000	102,776			211,244	1,422,180
協賛金収入	1,270,000	410,000							1,680,000
助成金等収入				1,322,944			1,050,969		2,373,913
委託費収入						1,436,400		1,112,800	2,549,200
参加費収入		123,000		14,500				51,500	189,000
その他事業収入	490,000		2,886,073	84,085				851,266	4,311,424
受取利息収入								268	268
雑収入								44,912	44,912
経常収益　計	1,760,000	691,160	2,886,073	2,421,529	102,776	1,436,400	1,050,969	2,777,330	13,126,237
【経常費用】									
事業費									
人件費				840,000		804,770	1,058,725	5,544,469	8,247,964
その他経費	27,010	535,672	360,760	525,820	280	518,300	613,388	499,155	3,080,385
事業費　計	27,010	535,672	360,760	1,365,820	280	1,323,070	1,672,113	6,043,624	11,328,349
管理費									
人件費									
その他経費								1,221,746	1,221,746
管理費　計								1,221,746	1,221,746
経常費用　計	27,010	535,672	360,760	1,365,820	280	1,323,070	1,672,113	7,265,370	12,550,095

	ゲンチャレ	ｱｲﾃﾞｱﾈｸｽﾄ	中小企業	復興販売	ホンチャレ	フェスタ	産業力強化	ユース会計	合　計
当期経常増減額	1,732,990	155,488	2,525,313	1,055,709	102,496	113,330	-621,144	-4,488,040	576,142
当期正味財産増減額	1,732,990	155,488	2,525,313	1,055,709	102,496	113,330	-621,144	-4,488,040	576,142
前期繰越正味財産額									32,731
次期繰越正味財産額									608,873

(注)特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動報告書と呼んでいます。

賃借対照表

2015年3月31日現在　（単位：円）

資産の部				負債の部			
科　目	当年度	前年度	対比	科　目	当年度	前年度	対比
【流動資産】				【流動負債】			
（現金・預金）				未払金	743,545	618,488	125,057
現金	61,851	159,872	-98,021	短期借入金	1,500,000	1,000,000	500,000
普通預金	2,712,512	932,929	1,779,583	預り金	631,676	99,692	531,984
郵便振替口座	206,500	361,500	-155,000	未払消費税	0	165,100	-165,100
立替金	63,231	21,710	41,521	流動負債　計	2,875,221	1,883,280	991,941
流動資産合計	3,044,094	1,476,011	1,568,083				
				負債の部合計	2,875,221	1,883,280	991,941
				正味財産の部			
【固定資産】				【正味財産】			
（投資その他の資産）				正味　財産	608,873	32,731	576,142
敷金	440,000	440,000	0	（うち当期正味財産増加額）	576,142	-14,220	590,362
投資その他の資産　計	440,000	440,000	0	正味財産　計	608,873	32,731	576,142
固定資産合計	440,000	440,000	0	正味財産の分合計	608,873	32,731	576,142
資産の部合計	3,484,094	1,916,011	1,568,083	負債・正味財産の部合計	3,484,094	1,916,011	1,568,083

財務に関する分析

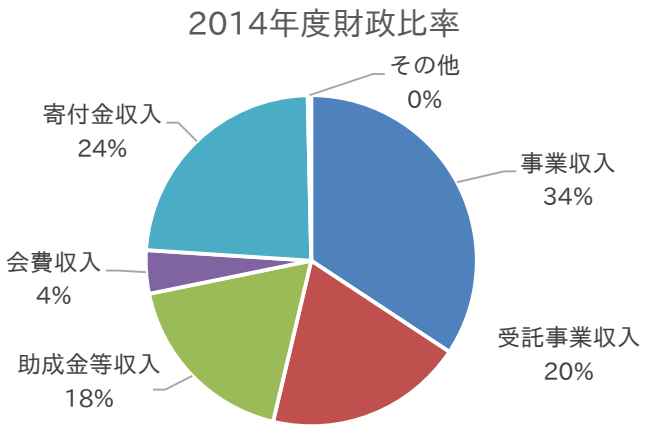
常勤２名、非常勤２名という昨年度と同様の体制にてスタート。会員の数も前年度の67名から119名へ増加したことで、当会のネットワークや協力者が更に広がった。取り組んでいる事業も２年・３年といった継続事業も増えてきており、事業とスタッフの専門性の深化もすすめられた。組織基盤の整備と事業の拡大を図れた１年となった。

今年度は昨年度の反省も踏まえて、自主事業の拡大に取り組む重点目標を掲げた。継続した取り組みによる活動の効率化・認知度のアップ、スタッフのスキルの向上、またＷＥＢやＳＮＳ媒体の効果的活用により、広報の効率化が図れたことで、収入増・支出減となり、昨年度の赤字から黒字への転換が図れた。

「収入」は、計画していたほとんどの事業を執行することができた。昨年までは受託事業が８割を越えていたが、今年度より自主事業の取り組みが軌道にのり、寄付・会費で約３０％を占めるなど、収入の多角化がすすんだ。これは継続して事業を取り組む上で、当初より重要視していたことであった。寄付キャンペーンも、事業との連動を図ったことで、企業／個人へより効果的にＰＲすることができ、昨年を大幅に上回る寄付をいただけた。

「支出」の多くは人件費と管理費であった。事業の拡大にあたり、広がった事業領域をカバーし、取り組みを加速していくためにもアウトソーシングをすすめ、事務所機能の整備なども急務となる。収支のバランスに注力したい。

次年度以降も、自主事業のボリュームアップと寄付・会員を獲得し、共感者を更に広げていくことで、ミッション達成に近づくことができるので、次年度も更なる加速を目指す。インターン事業などの自主事業も柱として成長してきたことから、次年度はＵＩＪターン者の取り込みなど、外部の若者の力を地域につなげる取り組みを行うなど、新規事業にもチャレンジしたい。引き続き、若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を継続して行える取組み・環境を整備していきたい。



事業収入	4,500,424円
受託事業収入	2,549,200円
助成金等収入	2,373,913円
会費収入	555,340円
寄付金収入	3,102,180円
その他	45,180円
計	13,126,237円

支えてくださっている企業・団体のみなさま （敬称略）

- KAERU Adventure 株式会社
- 有限会社コーチ精機
- 株式会社五光宇都宮店
- 株式会社サムライトサムシング
- 社会福祉法人正恵会グランメールグループ
- 一般社団法人CHEEK UP
- ハッピーメイカー
- 株式会社ファーム・アンド・ファーム・カンパニー

2014 ANNUAL REPORT
2014.04.01 – 2015.03.31

Tochigi Youth Supporters Network

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

〒320-0808　栃木県宇都宮市宮園町8-2　松島ビル2F
TEL/FAX: 028-612-3341　MAIL: ysn_office@tochigi-ysn.net
WEB: http://www.tochigi-ysn.net
Project Web “SOZO”: http://sozo.tochigi-ysn.net/
Twitter: @youth_tochigi
Facebook: tochigiysn / とちぎユースサポーターズネットワーク